

平成 30 年度 決算状況について

1 経営状況

平成30年度 損益計算書

科 目	a	b	c d	
	平成30年度 決算値 (千円)	平成30年度 予算値 (千円)	対予算増減(a-b) 差引増減 (千円)	増減率 (%)
1 営業収益	11,156,390	11,396,019	▲239,629	▲2.1
2 うち医業収益	10,250,117	10,514,907	▲264,790	▲2.5
3 入院収益	6,670,536	6,859,656	▲189,120	▲2.8
4 外来収益	3,335,407	3,366,339	▲30,932	▲0.9
5 その他医業収益	244,175	288,912	▲44,737	▲15.5
6 営業費用	12,239,826	11,972,425	267,401	2.2
7 給与費	6,643,705	6,455,874	187,831	2.9
8 材料費	3,056,851	2,930,477	126,374	4.3
9 経費	1,828,273	1,760,908	67,365	3.8
10 減価償却費	674,663	777,078	▲102,415	▲13.2
11 研究研修費	36,334	48,088	▲11,754	▲24.4
12 営業損益	▲1,083,436	▲576,406	▲507,030	88.0
13 営業外収益	170,442	195,476	▲25,034	▲12.8
14 営業外費用	1,828,100	1,969,127	▲141,027	▲7.2
15 経常損益	▲2,741,094	▲2,350,057	▲391,037	16.6
16 臨時利益	243,482	244,228	▲746	▲0.3
17 臨時損失	943,119	955,466	▲12,347	▲1.3
18 当期純損益	▲3,440,731	▲3,061,295	▲379,436	12.4

(1) 収支について

平成 30 年度の収支については、新病院への移転に伴う影響を受けることから、当初 30 億 61 百万円の赤字決算を見込んでいたが、収支は 3 億 79 百万円悪化し、34 億 41 百万円の赤字決算となった。なお、経常収支比率は 80.5%、医業収支比率は 83.7%となった。

(2) 資金

期末における現預金残高は 58 百万円だが、短期借入金は 5 億 70 百万円を含む額である為、実質的な残高は、マイナス 5 億 12 百万円となった。

2 経営状況悪化の主な要因

年度当初の 4 月から 6 月までの入院患者数の減少と 11 月と 12 月の病院移転前後の受入制限により、想定していた入院患者数に届かず、入院収益の減少につながった。また、支出の面においては、新病院開院に伴う職員（医療職）確保や、超過勤務の増加により、給与費が増加した。そのほか、備品購入や、委託業務の増加により、経費が増加したことが主な要因である。

3 経営改善に向けた今後の対応

新病院移転後の患者数は増加しており、今後も地域医療機関との連携及び救急患者受入の推進等、引き続き患者確保に努め、営業収益の向上を図る。

一方、費用面では、新病院開院により減価償却費は増大するが、超過勤務の見直し等による人件費の適正化や、材料費の抑制等、経費全体の縮減を図る。